

ペンギンシールMS2570typeNB(基剤)

作成日2014年03月20日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名:	ペンギンシールMS2570typeNB(基剤)
会社名:	サンスター技研株式会社
住所:	山梨県南アルプス市宮沢181-1
担当部門:	品質保証部
電話番号:	055-284-3801
推奨用途及び使用上の制限:	2成分形建築用シーリング材(基剤)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性		区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:ガス) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 呼吸器感受性 皮膚感受性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露) 吸引力呼吸器有害性	区分外 区分外 分類対象外 区分外 分類できない 区分外 区分外 分類できない 区分1 区分外 分類できない 区分外 区分外 分類できない 分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性	区分3 区分3

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報:

アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き:

【安全対策】
保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
粉じん、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
環境への放出を避けること。
【応急処置】
火災の場合には適切な消火方法をとること。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国/地域情報

15.適用法令に記載

3. 組成、成分情報

物質	
単一・混合物の区分	混合物
一般名:	2成分変成シリコーン系シーリング材
危険有害成分	該当物質なし

ペンギンシールMS2570typeNB(基剤)

作成日2014年03月20日

4. 応急措置

吸入した場合: 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぎ取り去ること。
 水又は適温の流水で洗淨した後、石鹸を用いてよく洗い落とす。
 脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。
 皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを求めること。

目に入った場合: コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗淨を続けること。
 水で数分間注意深く洗うこと。
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 直ちに医師の診断を受ける。
 口をすすぐこと。ただし意識の無い場合には、口から何も与えてはいけない。
 嘔吐が自然に起こった時は嘔吐物が気管に入らないよう身体を斜めにする。

5. 火災時の措置

消火剤: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤、乾燥砂

特有の消火方法: 火災発生場所周辺への関係者以外の立入りを禁止する。
 消火作業は風上から行う。
 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置を取る。
 大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護: 消火作業の際は、空気呼吸器を含め適切な化学用保護衣を着用する

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置: 作業者は適切な保護具(8.ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
 関係者以外の立入りを禁止する。
 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
 密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項: 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和: 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

封じ込め及び浄化方法と機材: 危険でなければ漏れを止める。
 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

二次災害の防止策: 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 保護手袋、衣類及び眼、顔面用の保護具を着用すること。
 容器を転倒、落下、衝撃を加える、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。

安全取扱い注意事項: 接触、吸入または飲み込んではいけません。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 蒸気を吸入しないこと。
 屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。

保管

技術的対策: 火気注意

保管条件: 容器を密閉して換気の良いところで貯蔵すること。
 冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。
 容器は直射日光や火気を避けること。
 施錠して貯蔵すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度、許容濃度(暴露限界値、生物学的暴露指標): 該当物質なし

設備対策: 換気及び洗眼器、シャワー等の設置を配慮する。

保護具:

呼吸器の保護具: 必要に応じ呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具: 保護手袋を着用すること。

眼の保護具: 保護メガネを着用すること。

皮膚及び身体の保護具: 作業着等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态、形状、色など): 乳白色ペースト

臭い: 微臭

pH: データなし

融点/凝固点: データなし

沸点、初留点と沸騰範囲: データなし

引火点: 100°C以上

燃焼又は爆発範囲の下限、上限: データなし

蒸気圧: データなし

蒸気密度: データなし

比重(密度): 約1.1

溶解度: 有機溶剤に可溶

n-オクタノール/水分分配係数: データなし

自然発火温度: データなし

分解温度: データなし

ペンギンシールMS2570typeNB(基剤)

作成日2014年03月20日

10. 安定性及び反応性

安定性:	常温では安定。
反応性:	データなし
避けるべき条件:	データなし
混触危険物質:	データなし
危険有害な分解生成物 (一酸化炭素、二酸化炭素、水以外):	データなし

11. 有害性情報

皮膚感受性:
配合物の含有量より区分IIに分類
アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性
配合物の含有量より区分3に分類
水生生物に有害
水生環境慢性有害性
配合物の含有量より区分3に分類
長期継続的影響によって水生生物に有害

13. 廃棄上の注意:

残余廃棄物:

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装:

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

国連分類: 該当しない
国連番号: 該当しない
緊急時応急指針番号: 該当しない
仕向け地の法律に従う。

国内規制

陸上輸送: 消防法に定められている輸送方法に従う。
海上輸送: 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。
航空輸送: 航空法に定められている輸送方法に従う。

輸送の特定の安全対策及び条件

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法:

名称等を通知すべき危険物及び有害物(57条の2): 対象物質なし
名称等を表示すべき危険物及び有害物(57条): 対象物質なし

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(通称 PRTR法):

対象物質なし

消防法:

非危険物

その他:

なし

16. その他の情報

ホルムアルデヒド基準:(日本シーリング材工業会)ホルムアルデヒド汚染対策のための自主管理規定
ペンギンシールMS2570typeNB(基材/硬化剤):JAIA-004078F☆☆☆☆

参考文献

- 1)化学物質の危険・有害性便覧(中央災害防止協会)
- 2)許容濃度等の勧告(2005年、日本産業衛生学会)
- 3)ACGIH(2005年)

この製品安全データシートに記載の内容は、最善の調査に基づき現時点で入手できた情報により作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関してはいかなる保証をするものではありません。本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には用途、用法に適した安全対策を実施のうえご利用下さい。尚、法改正や新しい知見、製品の改良等に伴い、予告なく製品安全データシートを改訂する場合があります。